



架け橋

第6号

(令和3年8月26日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

「40人中40位」からはい上がった金メダリスト

校長 芳崎 正道

36日間の休みも終了し、今日から2学期が始まります。皆さんは、どのような夏休みを過ごしましたか。終業式にお話した、「有意義で安全・健康な」生活を送ることはできましたか。

新型コロナウイルスの感染が爆発的に拡大し、緊急事態宣言が発令されており、保護者や地域の方々に対して、様々な教育活動を公開できない状態が続いています。感染防止に万全を期し、2学期の教育活動に取り組んでまいりますので、なにとぞ御理解・御協力いただきますよう、お願い申し上げます。



折り紙による花火(職員室前
掲示:分須業務主査製作)

東京オリンピックが閉幕し、パラリンピックが現在開催中です。TV観戦等を通して、アスリートの活躍や、これまでのエピソードに、感動したり、感銘を受けたりしました。

そのうち、今日は、競泳個人メドレーで200m・400mの2種目で金メダルを獲得した大橋悠依選手について御紹介します。数多くの競泳選手が中学・高校時代から台頭・活躍するのに対し、大橋選手が脚光を浴びたのは大学4年の世界選手権と遅咲きでした。それまでは、日本選手権に出場しても、40人中40位の最下位という状況でした。自分の努力が足りないと人一倍練習を重ねますが、大橋選手本人も、いくら練習しても伸びない自分に限界を覚え、大学卒業とともに競泳をやめることを考え始めました。まさにどん底・地獄の状態が長く続いたのです。

そんなある日、階段を少し上がっただけで息が切れ、「体がちょっとおかしいな」と感じます。

検査を受けると、極度の貧血が判明。その体質改善に取り組み始めてから、徐々に頭角を現します。2016年日本選手権400m個人メドレー3位で初の表彰台、翌年には初出場の世界選手権200m個人メドレーで銀メダルを獲得。2019年世界選手権では400m個人メドレーで銅メダルを獲得するなど国際大会で活躍を見せ、日本女子の柱となり、今回、東京五輪での快挙につながりました。

挫折を繰り返し、どん底の状態になりながら、それでも泳ぐことをあきらめず、腐りもせず、地道に取り組みを続けて培った土台に咲いた栄冠です。

生徒の皆さんも、努力を重ねてもなかなか思うように結果が出ない、むしろ成果が上がるどころか、下がってしまう、なんていうこともあるかもしれません。不調の原因がどこにあるのか、振り返り、分析し、「次」へとつなげていきましょう。

大橋選手のように、長い間どん底にあえいだり、数多くの挫折を経て、大きくなったり、飛躍を遂げたりした人は、たくさんいるのです。あきらめず、分析をし、「前」へと進んでいきましょう。